

# 股関節脱臼整復マニュアル

140928

(有)シェパード 伏見康生

## 処置のタイミング

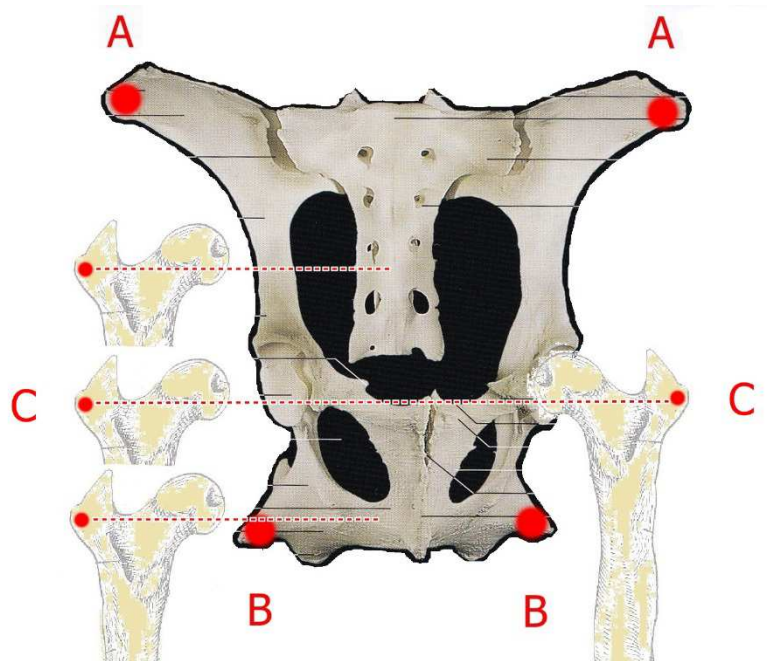
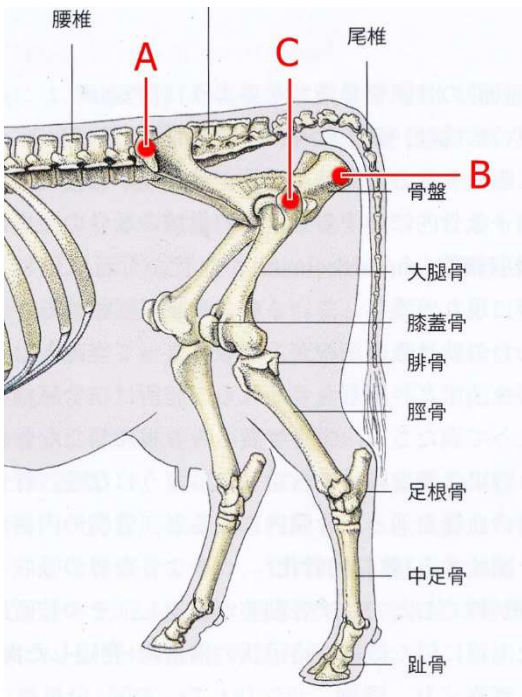
股関節脱臼の整復は、脱臼後早く実施した方が治りがよいため、必ず 24 時間以内に行うこと。

遅れた場合には寛骨臼に血餅、筋肉が埋まってしまい、大腿骨頭が抜けやすく、あるいははまらなくなる。

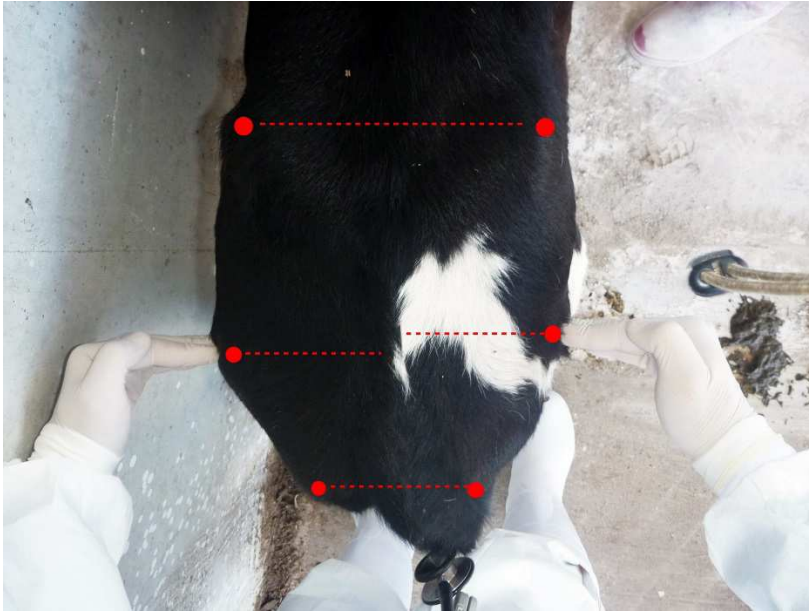
## 診断

跛行する牛を見つけたら、ロープで繋ぐかステーションに追い込み、真後ろから A 寛結節（腰角）、B 坐骨結節（坐骨端）と C 大腿骨大転子を触診する。

C 大腿骨大転子の位置に左右差が見られれば、跛行している側の股関節脱臼と診断される。大腿骨頭が骨折している場合は予後不良。その場合は聴診器を当てるとゴリゴリと骨の音がする。



※ 右の図は模式図でここまでずれることはまず無い。実際には下の写真程度のずれ。



## 整復

- ① セラクターにて鎮静する(1ml/100kg)
- ② 脱臼している側の脚を上にも横臥させ、頭を固定する
- ③ 腹部に太めのロープを回し、頑丈な柱と子牛を固定する
- ④ 脱臼している脚の小爪の上で輪状にロープを結ぶ
- ⑤ 助手が輪の中に入り体重をかけて脚を真下に引く
- ⑥ 術者は脱臼している脚の飛節を上にも、膝を下にも回す
- ⑦ 「ガコッ」という音が鳴れば寛骨臼に大腿骨頭がはまり、整復が成功

